



## なぜ赤ちゃんに聴覚スクリーニングが必要なのですか？

あなたの赤ちゃんは、生後数週間内に一連の健康診断を受けられます。これらの健診の1つが難聴の診断です。生後できるだけ早い時期に聴覚スクリーニングを受けることができます。

あなたと赤ちゃんが退院する前に、赤ちゃんが聴覚スクリーニングを受けることができない場合には、退院後すぐに外来で、または地元コミュニティの指定場所で受けることができます。

### なぜ赤ちゃんに聴覚スクリーニングが必要なのですか？

出生する赤ちゃんの1000人のうち約1人か2人に、重度の難聴が見られます。

できるだけ早期にあなたの赤ちゃんの聴力を調べ、適切な助言と支援を得られるようにすることが重要です。子供が最初の言葉を発するようになるまでに、子供たちは私たちの話し方を1年近く聞いているのです。

### 赤ちゃんの聴覚スクリーニングはどのようにして行われるのですか？

聴覚スクリーニングは、赤ちゃんが眠っている間、または静かに休んでいるときに、熟練の聴力検査士により行われます。検査中、赤ちゃんの側にいらして構いません。

検査士は赤ちゃんの頭に小さなセンサーパッドをのせて、イヤホンを通して赤ちゃんの耳にカチカチという音を流します。音に対する赤ちゃんの反応がセンサーパッドに記録されます。

通常、検査によって赤ちゃんがむずかたりすることはありません。検査は10分-20分程度要します。

### 結果

聴覚スクリーニングの終了直後に、結果が説明され、赤ちゃんの個人の健康記録（ブルーブック）に記録されます。

再検査が必要という結果が出た場合でも、必ずしも赤ちゃんに難聴があるとは限りません。再検査の理由は他にも考えられます。再検査が必要となる最も一般的な理由は、出生後、赤ちゃんの耳に液体が溜まっていたり、閉塞がみられる場合です。

### 赤ちゃんの成長に伴って、何をする必要があるのでしょうか？

聴力は、必ずしも経時的に変化しないとは限りません。

赤ちゃんの話し言葉と言語能力の発達と同様に、音に対する反応を観察することが重要です。

お子さんの発育の度合いを調べるために次ページのチェックリストをご参照ください。

将来、お子さんの聴覚や話し言葉と言語能力の発達について心配がおりの場合には、お子さんの聴覚検査を手配してください。適切な聴力検査を受けるためにファミリードクターに紹介状を依頼してください。

聴力は、年齢を問わず検査できます。

さらに詳しい情報については、  
下記のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.health.nsw.gov.au/kids-families>

最寄りの連絡先／予約の詳細

健康に関するアドバイスについては、*healthdirect Australia*にお問い合わせください。 <http://www.healthdirect.gov.au/>  
1800 022 222



## 聴力チェックリスト

<b>出生から生後3ヶ月まで</b>	大きな音に反応を示す
	聞きなれた声や音を聞くと静かになる
	クーイングの音を出す
	話している人の顔を見て、言葉に反応する
<b>3-6ヶ月</b>	音の聞こえる方に目や頭を向ける
	話し声のような音を出し始める
	感情を示すために笑ったり声を出したりする
<b>6-9ヶ月</b>	「ダーダ」、「マーマー」、「バーバー」と喃語を話す
	注目を集めるために大声を出す/声を出す
	「ノー」および自分の名前にしばしば反応する
	歌や音楽に反応する
<b>9-12ヶ月</b>	他の人の話し声の真似をする
	例「ボール」、「ドッグ」、「ダディー」などの簡単な言葉を理解する
	弱い音にも頭を向ける
	最初の言葉を話す
<b>12-18ヶ月</b>	毎週、新しい言葉をいくつか理解しているように見える
	簡単な話し言葉による指示に従う。例「ボールをとってきて」
	質問されると人や体の部位や玩具を指す
	新しい言葉を継続的に学び、不明瞭であっても言う
<b>18-24ヶ月</b>	日常使う言葉は100-200語になる
	簡単な話や歌を聞こうとする
	2語以上の言葉をつないで短い熟語にする。例「もっとジュース」

注:

